

平成18年度 県土整備部環境配慮事例報告書

事業主管課	港湾空港整備局 港湾課
実施機関	南部総合県民局 県土整備部<阿南>

【事業の概要】

事業の種類	港湾・漁港・海岸整備	港湾・漁港整備
事業箇所名	阿南市伊島町	
事業の規模・状況	防波堤 193 m	中規模事業 設計段階

【事業の目的及び概要】

既設防波堤が、近年の異常気象により被災を受けているため、設計波浪を見直し、改良を加える。これにより、通常時における航路の静穏度を確保するものである。

【検討した環境要素の一覧及びRDBの有無、モニタリングの要否】

大気環境	水環境	地形・地質等	生物多様性	景観	自然とのふれあい	文化財	廃棄物・温室効果ガス等	RDB種の有無	モニタリングの要否
			○						

【特に配慮した環境要素と検討事項】

当該施設周辺は、アワビ、サザエ、伊勢エビ、ウニ等の良好な漁場である。このため、これらの生育環境に配慮した溝付き消波ブロックを使用した防波堤を建設する。

陸上部には、通常の消波ブロックを使用し、平均干潮面より下の水中部では主に海藻類の固着を目的として、溝付き消波ブロックを使用する。

なお、消波ブロックの溝部には、海藻を餌とするサザエ、ウニ等が蛸集することも期待され、これらの生物が魚類から身を守る隠れ家としても活用される。

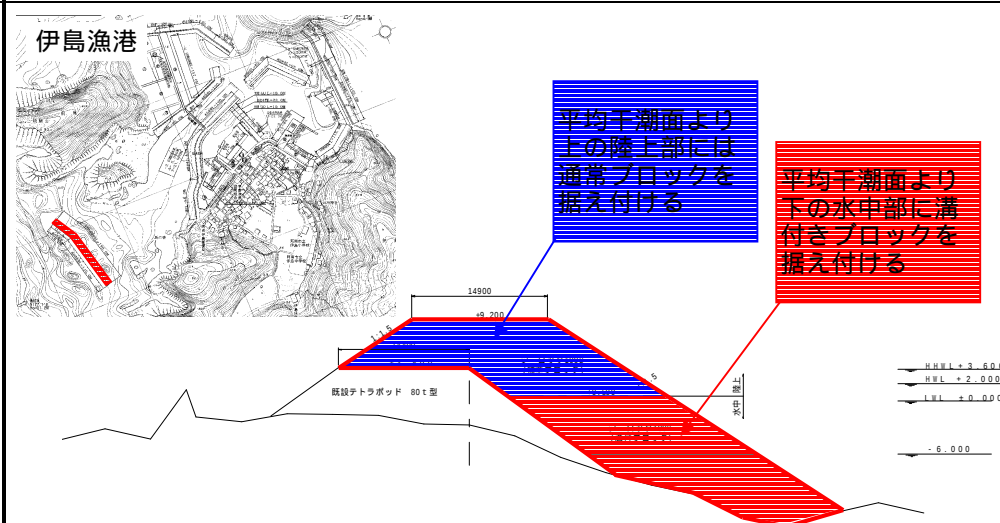
【目標に対する達成状況】

本年度は、設計段階のため、達成状況の確認は後年度となる。

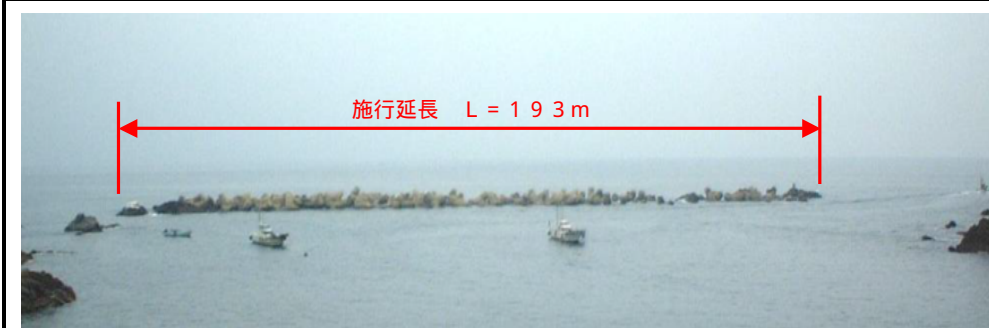
【検討事項に対する評価】

実施者	本年度は、設計段階のため、次年度以降溝付きブロックを製作・据付していくことになる。他県での実績もあることから、良好な漁場の形成が期待できる。
主管課	ブロック据付以降、継続的な効果観測が必要と思われる。
専門家	溝付き消波ブロックは平均干潮面以下の設置になっている。生物多様性の観点から、潮間帯も含めて設置した方がよいのでは。

位置図・平面図等



写真



現況：既設防波堤

(溝部)
ここに海藻類が固着する。